

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解

科目コード：120103

人間機能学Ⅲ（演習・実験） Laboratory Work on Human Body

担当教員	市丸 徹 長谷川 昇				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	1	授業形態	実習・演習
必修・選択	必修	時間数	45		
Keywords	解剖学、生理学、生化学				
学習目的・目標	人間機能学Ⅰ（解剖生理学）、人間機能学Ⅱ（生化学）の講義・演習から得た知識をより深く理解するための実習・演習を行います。まとめ・発表回では、実験結果や考察を学生どうしでまとめて発表し、討論します。 【目的】自分の身体や生体材料などを用いた演習・実験を通して、生命現象に対する理解を深める。【目標】 1. 全員が実習に参加し、自分の知識を再確認する。 2. 解剖・生理学の基礎的な実験手技を習得する。 3. 実験結果のまとめ方とプレゼンテーションの仕方を学ぶ。				
授業計画・内容					
回	内容				
1	オリエンテーション・説明（1）				
2	血圧・感覚実習				
3	心電図・肺機能実習				
4	まとめ・演習（1）				
5	説明（2）				
6	血液・浸透圧実験				
7	酸塩基平衡実験				
8	まとめ・演習（2）				
9	説明（3）				
10	体表解剖学演習				
11	ラット解剖実習				
12	まとめ・演習（3）				
	※各回の講義時間は2コマ分です。 ※予定は都合により変更となる可能性があります。				
教科書	実習の手引きを各説明回で配布する予定です。この手引きに従って講義をすすめます。 実習開始までに白衣を用意して下さい。白衣に関しては10月に共同購入の機会があります。				
参考図書等					
評価指標	成績評価対象者：出席2/3以上。レポート提出者（各まとめ・演習回にレポートを回収）。 出席・受講態度50%、レポート50%で評価します。レポートは必ず提出して下さい。未提出でも督促はしません。 また実習への参加を重視しています。基本的には全出席してください。実習欠席者には補習、追加レポート、面談等を課しますので、自ら教員まで申し出てください。連絡がない者、およびレポート未提出者は単位が認定されない場合があります。				
関連科目	人間機能学Ⅰ、人間機能学Ⅱ、疾病障害論、人間病態学、他多数				
教員から学生へのメッセージ	実習・演習においては、自分自身の手を動かし、自分で考え工夫することにより真の知識が身につきます。参加して実行することが重要です。必ず事前に実習の手引き等で予習しておいて下さい。実験では、常に教科書どおりの結果になるとは限りません。そのような結果にも何か理由があるはずで、学んだ知識を総動員して応用し、自分なりの考えをレポートにまとめて下さい。この講義を通して、主体的に考え、学んでいく姿勢を養ってくださることを期待しています。				